

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	株式会社 MINORI	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護はなまる
所在地	(〒880-0211) 宮崎市佐土原町下田島 12133-45		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・看護小規模多機能型居宅介護としての役割…医療依存度が高い方の受け入れ。
(吸引対象者(鼻腔・口腔・気管カニューレ内)・経管栄養(鼻腔・胃婇)・CVポート・人工呼吸器・ALS等)
- ・地域密着型事業所としての役割
(地域を巻き込んだイベントを行う。地域イベントの参加。認知症サポーター養成講座・啓発活動等)

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2020 年 1 月 20 日	従業者等自己評価 実施人数	(14) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2020 年 1 月 24 日	出席人数(合計)	(7) 人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員(3 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員(0 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員(1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者(3 人) <input type="checkbox"/> 利用者(0 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族(0 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者(0 人) <input type="checkbox"/> その他(0 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		<p>新規事業の中、理念を基に事業運営を行った。サービス内容についても看護小規模としての役割を意識し医療ニーズの高い方の受け入れ等も行っている。地域に向けた積極的取組みも行い、認知症サポーター養成講座、慰問、フェスタなど多くの地域と交流ができる環境を作ってきた。職場環境においても、個々の諸事情に合わせた業務体系作りや情報共有についても日々の変化の情報をいち早く共有、伝達出来るようにPC・タブレットを活用した取組みを行ってきた。職員ライングループで業務についての申し送りや災害等に関する連絡を行ってきた。</p>	<p>日々変化するご利用者の情報をいち早く伝達及び情報収集する事でスムーズな対応が出来る様に取り組む必要がある。開設1年未満の事業所としては評価出来る部分も沢山ある。例えば、地域を巻き込んだイベントを行ったり、認知症サポーター養成講座や地域のイベントに参加したりと理念にある様に「地域に根付いた事業所」になっていると思う。医療面に関しても医療ニーズが高いご利用者を積極的に受け入れを行って貰っているのも助かっている。今後も継続して欲しいと思う。</p>
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>サービス計画についても、ご本人、ご家族の意向を尊重し、柔軟な受け入れ体制を作り、個々の状況に応じた介護実践に取り組んでいる。痰吸引や胃薬の方など状態に応じた受け入れを行った。在宅生活が持続できるように、ご家族との関係も密に行ってきている。24時間切れ目のない体制で、オンコールなど緊急の夜間訪問など安心した生活が送れるように取り組んでいる。</p>	<p>研修に行き、質の向上を高めたり医師・看護師のアドバイスの基、医療に関する専門的技術を介護職が学んだり、逆に介護職が看護職にケアに関する事をアドバイス出来ていけば、より良い事業所になっていくと思う。また、個々のレベルアップが出来る様なキャリアパスの仕組みを構築してはどうか？利用者の状態変化が発生した場合迅速に関係各所と連携を図り対応出来るよう努める。</p>

<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>		<p>受け入れ等においても、カンファレンスなど行い、事前の情報提供や面談などでご本人の状態把握に努めた。かかりつけ医・主治医・協力医療機関等との情報提供をこまめに行い、日々の状態や緊急時の情報提供がスムーズに行えるように努めた。役職職員・ケアマネージャーなど地域での取り組みなどに積極的に参加し関係性を築いてきた。</p> <p>多職種連絡会や北ブロック包括連絡会に所属し情報を得ている。</p>	<p>主治医・協力医療機関を中心に連携を図ると共に、退院カンファレンスや医療機関に出向いての状態確認に努める。</p> <p>地域のケアマネージャー・医療連携室のスタッフとの連携強化が課題になってくる。</p> <p>また、様々な職能団体に所属し情報を得る事も重要になってくる。</p>
<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)</p>		<p>看護小規模多機能として、医療ニーズの高い方が安心して受け入れ出来る様に受け入れを行った。看取りを実践し、本人・ご家族が穏やかな終末期を迎えられる様に配慮した取り組みを行った。</p> <p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開催。家族の集いも実施し、日頃の在宅介護の悩みや相談など、ご家族と共に共有でき、アドバイスや共感できる場を作って来た。地域住民参加の防災訓練や地域訓練もご利用者と共に参加した。</p> <p>認知症サポーター養成講座、敬老会慰問、地区行事、施設内での近隣地域との交流会（はなまるフェスタ）など開催し交流の場を作って来た。</p>	<p>法人として・新規事業所として様々な取り組みを行っている。地域や関係機関への広報・啓発活動等を行っているのが解る。運営推進会議や家族の集いを通じて、もっと地域での課題が出て来る様になればよりよい事業所になってくるのではないかと。</p>

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>			<p>1年未満の事業所として、サービスにおける細かい配慮の劣るところがあるが、サービス全体から見ると、柔軟性のある受け入れや体制作りができたと思う。地域包括ケアシステムに掲げる住み慣れた地域での生活の継続を行う事が出来たのではないかと。在宅での生活を応援する為の事業所ではあるが、看護小規模としての役割に「看取り」もあるので、その様な方で事業所での看取りを希望される方には事業所での看取りを行ってきた。開設して4名の看取りを実践してきた(在宅1名 事業所3名)</p>	<p>看護小規模多機能として、地域密着型事業所として何が必要か、どういった取り組みが大切になってくるか?をしっかりと考えながら事業所運営に取り組んだ。また小規模多機能系の事業所としての強みである「即時性」「柔軟性」をしっかりとサービス内容に組み込める様に看護得ていく。ご利用者の援助目標、内容をより具体的かつ明確に全職員が個別支援が出来る様に意識を持っていく。</p>

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します